

令和2年度(2020年度)地方創生推進交付金事業の検証結果について

交付金対象事業の名称		事業概要					
地域間連携による「稼ぐ力」「新たな人の流れ」創出プロジェクト (久留米広域連携中核都市圏4市2町での広域連携事業)		久留米広域連携中核都市圏として、圏域が一体となって、地域資源を活かして、地域の稼ぐ力を最大限に引き出し、「しごと」の創生に取り組む。また、圏域の魅力を磨き上げ、訪問者や滞在時間を増やし、観光消費額の増につなげる。観光の「稼げる産業化」に取り組む。 ■圏域の各市町の地域資源を活かした地域の稼ぐ力の向上 ■観光資源、産業、文化芸術・歴史資源など連携市町の各自の強みを生かした資源を磨き上げる ■新たな魅力の創造・発信による観光客獲得や定住人口確保に向けた取組展開					
実施内容	大川市事業費 (うち交付金額)	重要業績評価指標(KPI)				大川市まち・ひと・しごと創生総合戦略検証委員会 からの意見・提案・まとめ	今後の方針
		指標	基準値	目標値 (2020年度)	2020年度 実績値		
<p>《ブランド育成事業》 実施主体:大川商工会議所への補助 ○「木のきもちブランド」について、令和2年度は体験型のワークショップ商材に力を入れ、新たに4作品を製作し、トータル24作品を制作。商品数の充実により体験やワークショップへの対応も可能となった。コロナ過ではあるが、本市近辺でのイベントに積極的に参加した。</p>	3,000,000 (1,500,000)	商品開発数【累積】(回)	0	20	24	本市の補助金はR2年度で終了となるが、本事業は継続していく。今後も、市内外の展示会、即売会、イベントに積極的に参加し、木のきもち事業活動及び木のきもち商品をPRしていく	
<p>《インテリア人材育成事業》 実施主体:大川商工会議所への補助 ○大川の家具産業に関わりを持つ人材を育てることを目的とした「大川家具職人塾」を開催。令和2年度は、9名(市内3名)の塾生に対し、年間40日間の塾を開設。塾生には、アームチェアやテーブルの制作を通じた指導が行われた。コロナ禍もあり、起業及び市内就職者の実績はなかった。</p>	2,000,000 (1,000,000)					職人技の伝承、後継者育成が重要なのは言うまでもないが、費用対効果を念頭に事業の見直しを図る。	
<p>《インテリア産業強化支援事業》 実施主体:(一財)大川インテリア振興センターへの補助 インテリア産業の底上げを図る事業を実施 ○新商品・新技術開発支援事業・・・頑張る企業支援事業 ○需要開拓事業・・・ギフトショー出展(16社)、国際ホテルレストランショー出展(2社)、建築・建材展出展(3社) ○産地PR事業・・・電子ブックによる情報発信、インテリア情報誌の発刊 ○調査研究事業・・・インテリア産業関連統計資料 ○収益事業・・・国・県森林環境税対策および関係機関との連携促進</p>	9,835,308 (4,917,654)					長引くコロナ過に対応するため、展示会以外のネットを活用したPRIについて検討していく。	
<p>《インテリア産業販売促進戦略構築事業》 実施主体:(一財)大川インテリア振興センターへの補助 ○大川木工産業のPR事業 ・PRイベント「Meet Up OKAWA」の開催 2月25日に福岡市内イムズホールにおいて、「大川木工産業の今とこれからを建築家と読み解くトークセッション」を開催。建築士・インテリアコーディネーター等、会場参加者43名、オンライン参加者183名、合計226人が参加。 ・木工万能産地大川をPRするタブloid紙を作成 納品業者の取材を行い、動画を製作し、各種展示会において活用。 ・幼児教育向け絵本の制作 家具ができるまでをわかりやすく描いた絵本を製作し、木工と森林環境の保全のPRを行った。 ・木工万能産地大川パンフレットを作成 ファクトリーツアー強化のため、パンフレットを作成し各種展示会においても配布。 ○高校・専門学校との交流会事業 11月5日に、福岡県立大川樟風高校住環境システム科生徒40名が参加。また、11月24日には、福岡県立田川高等技術専門学校木工家具科の生徒26名が参加。市内製材所、家具製造社等を視察。</p>	19,359,011 (9,679,505)	インテリア関連産業の生産高(億円)	366	400	394	<p>・新型コロナウイルス感染症の影響による事業中止が多いようだが、代替事業の準備やネットを活用した非接触型の商談・PRへの移行も検討していく必要がある。</p> <p>・大川の産業(家具を中心としたもの)を発展させていくためには海外展開が重要だと思われます。新型コロナウイルス感染症の影響があり、事業の再開には時間も要すると思われすが、長期的なスパンで継続して事業を行ってほしい。</p>	
<p>《海外販路開拓調査研究事業》 事業主体:(協)福岡・大川家具工業会への補助 予算化していたが、コロナ禍で事業を中止。</p>	0 (0)					<p>・メディアPRIは大切。事業効果の数値化とデータの活用に努めてほしい(アクセス数・エリア)。</p> <p>・コロナ禍で観光客は減少しているが、木工体験や家具探しはネットを活用すれば疑似体験(DX)が可能なので、商圏・市場を拡大するのに有効。</p>	
<p>《家具展示会事業》 事業主体:(協)福岡・大川家具工業会への補助 ○産地大川で展示会を開催(年4回) 産地「大川」において展示会を開催することで市内事業者の展示会への出展を容易にし、営業活動の促進及び販路拡大と併せて、産地の技術向上、競争力の強化を図った。さらには、家具関連企業や消費者に産地としての技術力の高さをアピールすることで販路拡大及び競争力強化を図るため、産地「大川」で年4回開催される展示会(R2年度は3回開催)への補助を行った。</p>	3,750,000 (1,875,000)					今後については、新型コロナウイルス感染症の状況を見極め、事業実施を検討する。	
<p>《シティセールス事業》 【テレビCM制作・放映、YouTube動画制作】 職人MADE大川家具のブランディングのためのPRとして、通年でテレビCMの放映(TNCめざましテレビ/毎週木曜日)や職人MADEのWebサイトの運用及びリスティング広告を実施した。 【木工まつり・首都圏イベント】 新型コロナウイルス感染症の影響により中止。</p>	8,646,000 (4,323,000)					年4回開催の展示会において、これまでのバイヤーと異なる新たな業種(例えばホテル、病院等、多方面のバイヤー)への販路開拓を行う	
<p>《インテリア産業・観光の情報発信拠点》 「大川市観光・インテリア情報ステーション 大川テラツツァ」の施設維持管理を実施。 新型コロナウイルス感染症の影響により、KPI実績は大きなマイナスとなった。</p>	871,126 (435,563)	昇開橋来訪観光入込客数(人)	75,864	100,000	55,122	新たに「家具のある暮らしの豊かさ」をコンセプトに、WEB広告を中心に実施し、大川家具及び大川市の効果的なブランディングにつなげる。	
<p>《マイスターツーリズム推進事業》 実施主体:大川観光協会への補助 観光情報の発信を行い、シティプロモーションを活用した地場産業の活性化を図り、経済効果に寄与することを目的とし、大川観光協会に対してマイスターツーリズム推進事業補助金を交付した。具体的な事業としては、情報発信の強化として、大川観光協会のホームページのリニューアルや大川の特産品を市外からもインターネットで購入できるECサイトをオープンした。また、家具購入希望者に対して家具店等を紹介するための家具コンシェルジュのブラッシュアップを行った。 その他、えつものブランディングのための名物料理の開発やブランドロゴの制作を行い、ロゴをあしらったのぼり旗及びのし紙を製作し市内飲食店に配布。 新型コロナウイルス感染症の影響により、KPI実績は大きなマイナスとなった。</p>	6,000,000 (3,000,000)	大川市観光入込客数(万人)	78.1	92.5	39.5	地方創生推進交付金はR2年度で終了となるが、観光情報発信施設として引き続き維持管理する。	
						新型コロナウイルス感染症の影響により、リアルでのイベント等の実施は困難な状況である。しかしながら、このような状況であるからこそ新型コロナウイルス感染症の収束後に向けた施策として、ホームページやSNSを活用した情報発信や観光のデジタル化を進めていく。	

交付金対象事業の名称		事業概要						
県民総活躍社会の実現プロジェクト (福岡県及び関連市町との広域連携事業)		高齢者、女性、障害のある人、若者など多様な主体が、それぞれの能力を発揮しながら、地方創生を担う人材として活躍する全員参加型の社会を目指す。						
事業開始	事業終了	■多様な主体が活躍する地域社会の実現に向けて、県の地域振興プロジェクトと連携して、筑後七国の観光・物産PR事業を実施						
2020年4月	2021年3月							
実施内容		重要業績評価指標(KPI)				大川市まち・ひと・しごと創生総合戦略検証委員会 からの意見・提案	今後の方針	
		指標	基準値	目標値 (2020年度)	2019年度 実績値			
実施主体:筑後七国活性化協議会への負担金(構成団体:筑後市、柳川市、八女市、みやま市、大川市、大木町、広川町) ○ホークスベースボールパーク筑後を活用した地域活性化事業 ・「筑後七国応援ウィーク大川市」(コロナ禍により中止) ○観光情報発信事業 ・観光プロモーション映像の活用 ・筑後七国スタンプラリー(1,867人) ・筑後七国着地型観光ツアー(コロナ禍により中止) ○ホークス 連携による都市圏観光PR事業 ・博多駅前広場による福岡都市圏PR(コロナ禍により中止) ・博多駅急特設会場による福岡都市圏PR ○「HAWAKSベースボールパーク筑後」開業5周年記念事業 ・「HAWAKSベースボールパーク筑後」開業5周年巡回パネル展 ・「HAWAKSベースボールパーク筑後」開業5周年巡回パネル展 ○商工観光に関する事業 ・筑後七国観光ボランティアガイド研修会(24名参加) ・筑後船小屋観光案内所の活用 ○ホークス連携に関する事業 ・野球観戦の招待・優待事業 ・筑後七国と福岡ソフトバンクホークスとの広報協力 ○青少年野球教室 ・筑後七国中学生野球教室(中学校の野球部を対象に6回実施。ホークスOBやコーチ3名ずつを派遣。)		252,000 (126,000)	大川市観光入込客数(万人)	78.1	92.5	39.5	なし	新型コロナウイルス感染症が観光に与える影響は尋常ではなく、これまでの観光事業の見直しは避けられない。県内・九州管内の観光客向けの誘客事業・観光PRからスタートする必要がある。筑後七国による広域観光の取り組みは効果が高いと思われる。